豊田氏と清水氏の

ちょっと行ってみいへんで

一宮城とその周辺

徳島で一番有名な城というと、やはり徳島城（徳島中央公園）ということになるでしょうが、忘れてはならないそれ以前のことと言えばやはり「一宮城」でしょう。

豊臣秀吉の四国征伐の時、秀吉の四万余の攻撃を一万余の兵でよく守ったが、長宗我部元親の降伏により開城。蜂須賀家正が秀吉から阿波を与えられ最初に入ったのが一宮城です。1585年（天正13年）のことです。翌年には徳島城に移りました。ということで今回は、あまり知られていないであろう一宮城を訪ねてみました。

一宮城は、1338年（延元3年）小笠原（一宮）長宗により構築されたといいます。東西700m、南北600mに及び、鮎喰川の清流を前に臨み、背後には山岳を控えた、自然の地形を利用した県内最大級の山城です。阿波九城と呼ばれる重要な支城の一つでしたが、1638年（寛永15年）一国一城令により廃城となりました。

徳島市中心部から、吉野川の支流である鮎喰川をさかのぼったところに四国霊場第13番札所大日寺があり、県道21号線を挟んで一宮神社があります。その隣に一宮城への登山口があります。（写真①②）

1

2

遊歩道や案内板が良く整備されていて登りやすいのですが、やや急な坂もあります。（写真③④）標高は144mで、600mほどの坂道は20分ほどで本丸に行けます。途中、倉庫跡（写真⑤）、才蔵丸等があり、そこからの見晴らしも良く、初めて来た人は、意外な眺望の良さに感激することでしょう。（写真⑥）

本丸跡には当時を偲ばせる石垣が残っており（写真⑦）、東側に開いた虎口の石段は急で有名です（写真⑧）。これらの石垣は、徳島では産出例の多い結晶片岩の野面積みで、角石には立石を用いるなど、近世城郭の初期時代と思われます。徳島県下では池田城と同規模で、徳島城に次ぐ大規模なものとなっています。

一宮城は、明神丸等の曲輪の南城と本丸の北城の二城から成り立ち、山麓には居館があったと言われています。構造はすこぶる精巧堅固で、阿波の名城に数えられています。本丸を取り巻くように、明神丸、才蔵丸、小倉丸、椎の丸、水手丸などの曲輪、堀や土塁が遺存し、南北朝時代から戦国時代にかけての山城の荒々しさと、それを守っていた当時の武士の剛健な気風を偲ば

せています。(写真⑨⑩⑪⑫)

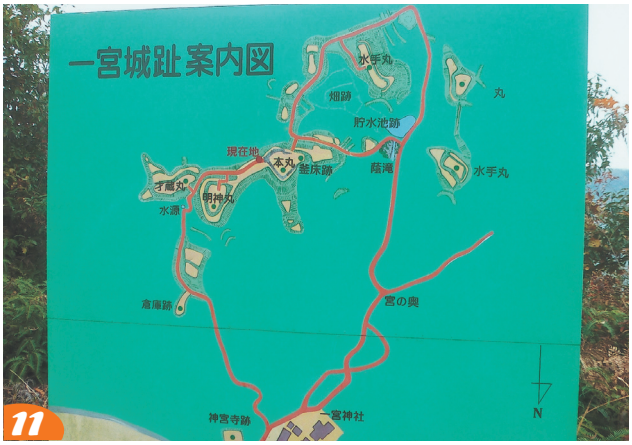
本丸と水手丸との間にある谷間には湧水があり（写真⑬)、そこから湧き出た水が貯水池に溜められていたのでしょう。この下に陰滝があり（写真⑭)、水量は少ないですが現在でも水が落ちています。ただ、帰りの道は急坂もあり（写真⑮)、自然道でそれほど整備されておらず、自信のない方は上りの道を引き返した方が良いかも知れません。しかし、できればこちらも見て欲しいと思います。残念なのは、麓あたりに放置自転車やバイクが何台かあったことです。遍路道でもそうでしたが、無くしたいもののひとつです。

9

一宮城跡を出て左折し鮎喰川沿いを上流方面へ。川沿いの景色を眺めながら阿野（阿川梅林入口）を通り、養父トンネルを抜けてすぐの三叉路(左一宮、直進神山の標識あり)を左折して県道21号線へ。道は少し狭くなってきますが対向はできます。約10分少々で左側にしだれ桜の「ゆうかの里」があります。(写真⑯）3月末頃、ソメイヨシノより一足早く咲き、約300本以上の大きな「しだれ桜」（写真⑰）と黄色い花の「れんぎょう」とのコラボが素晴らしい、非常に見事な花見場所となります。道路の右側が広くなっていて十分な駐車スペースがあります。入山すると内部は遊歩道が整備されており、奥の高台には観音像が起っています。東屋もあり花山を一望でき、家族等でお弁当を広げて一服するのに適した場所です。

10

12



11

13

さらに、一宮方面へ車を進めると約10数分でトンネルがあり、その手前を左に進むと神山森林公園（イルローザの森）へ行けます。（写真⑱⑲）ここも桜の名所で、4月初めには道路沿いのソメイヨシノがトンネル状に花を咲かせることでしょう。神山は2月には阿川の梅林、3月末には「しだれ桜の里・神山」となり、明王寺のしだれ桜は有名です。道の駅「温泉の里神山」の近くには、神山温泉や石釜で焼くパン屋さん、神山アート、雨乞の滝、幸福神社等々見所満載。（写真⑳）一日中楽しめる所です。是非一度足を運んでください。

17

14

18

15

19

16

20